

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	はじめの一步古賀西事業所		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	81	(回答者数) 60
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	非常勤・アルバイト生を含め、職員の関係性がよく、ざっくばらんに言い合える環境で、子どもに関する情報などの共有ができています。そのため、どの職員がどのプログラムに携わっても運営することができます。	利用児の特性に関すること等、気づいたことや感じたことを朝礼・昼礼・終礼で伝えられている。そして、支援の仕方などを検討し実践し、実践後は振り返りを行い更に検討している。	正規職員だけでなく、非常勤職員やアルバイト生も詳しく周知できるように、業務日誌への記載の仕方、口頭での伝え方、などを強化していく。
2	学習・運動・レクリエーション・サッカークラブ・ダンスクラブ・生活クラブ・余暇活動と活動プログラムが豊富。	・同じプログラムに参加している中でも、児のレベルに合わせて提示する内容を変えている。 ・口頭指示だけでなく視覚的支援ツールを使って説明し指示を出すようにしている。 ・児に合わせた教材を提供するようにしている（例：コグニティブトレーニングを実施するにしても、レベルを分けるなど）。	・職員たちが自分たちが行っている支援の手法を更に確立できるように、ABA（応用行動分析）などの研修を実施し、支援の質をあげる。 ・統一した支援や関わりができるように、更なる職員間のコミュニケーションをはかる。
3	中学生～高校生を対象とする独立したプログラムがある。	・パソコン検定を事業所で行えるようにしている。 ・外部講師に依頼をして、Word・Excel・PowerPoint・プログラミングなどを教えてもらえるようにしている。	ネットリテラシーの講座を開き、SNSなどを使用するにあたっての危険性などを子どもだけでなく保護者にも伝えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・集団療育をするにあたり、スペースの狭さを感じる。 ・古民家のため、温度調節が難しい（夏は暑く、冬は寒い）。	古民家を活用しており、スペース確保や冷暖房機を使用しても調節が難しい。	児童の荷物置き場や活動する時の配置など、現在できる対策を洗い出し、環境を整えていく。
2			
3			